

(別紙様式2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 26 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 25 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
時間割に関して改善要求があるので、時間割作成の際に対象学年を同じくする科目の開講枠が重なることがないように留意する。また特定の曜日は時間帯に専門科目が集中しないように、教務委員会から各学科に注意する。
実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋（翌年度時間割作成時）
改善状況
平成 26 年度の時間割作成において、各学科教務委員が当該学科教員に注意喚起を促すと共に、時間割作成過程において可能な限りの目配りと調整を試みた。対象学年を同じくする科目の開講枠が重なる事態は回避できていると思われるが、依然として授業が火曜日と水曜日に集中する傾向が見られる。
達成年度（予定を含む）
今年度の時間割作成において、可能な限りの改善が達成できた。来年度以降も上記の留意点に配慮しながら、時間割作成を行って行く予定である。

改善事項
学部生の英語教育

改善計画
<p>共通英語のカリキュラム改変に伴い、これまで2年次までの必修4科目8単位と選択2科目4単位までとなっていた英語科目が、能力と意欲のある学生については必修2科目2単位、学部指定履修科目2単位の他に4年次まで履修した6単位を教養科目の必要単位数に、またそれ以上に取得した場合には自由科目の一部として数えることができるようになった。学部として積極的な履修を勧める方策をとる。また、共通科目、専門科目を問わず、授業以外の場で、英語履修を促す学部生の集いの場を設ける。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成25年秋～平成26年度</p>
改善状況
<p>4月の1年生ガイダンスにおいて、少しでも多くの英語選択科目を履修するよう強く勧めた。英語選択科目の履修状況を調査したところ、大多数の1年生が積極的に履修している実態が確認できた。</p> <p>10月下旬から週1回程度の割合で、英語を使用することを義務付けた English Café を始めた。多くの学生の参加のもと成功を修めていることから、英語を用いたコミュニケーションへの関心を高める一助となったと判断できる。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>今年度は、（1年生の）英語選択科目の履修状況調査の結果から判断すると、目標を十分に達成できたと考えられる。来年度も引き続き、学生の英語への関心を高める組織的取り組みを継続するとともに、新1年生の実態調査と新2年生の経過調査を行う予定である。</p>

改善事項
学部生の初修外国語
改善計画
<p>初修外国語で身に付けた力を実際に活かすため、短期留学などを積極的に勧める。留学体験者の報告会を開催するほか、授業外で留学生と触れ合う機会や、特定の外国語を使用することを義務づけたサロン（カフェ）の開設を行う。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成25年秋</p>
改善状況
<p>今年度もドイツ、フランスへの部局間交流協定校への学生派遣を行った。留学体験者の報告会については、ボン大学から帰国した学生による体験談を聞く機会を設けた。ただし、参加者が少なく、今後広報の面で工夫が求められる。</p> <p>初修外国語担当教員を中心として、海外留学を希望している学生からの相談に対応している。人文社会科学部は他の学部と比較しても、短期・長期留学をする学生の数が圧倒的に</p>

<p>多い。一定数の学生が海外留学に出かけた、あるいはこれから出かける予定であることから判断すると、この点では目標を達成できたと考えられる。今後も学生に海外留学を勧める取り組みを継続していく。</p> <p>英語を使用することを義務付けた English Café を開設し、成功を修めた。今後は、英語以外の外国語に関しても、同様のカフェ（外国語を用いて語らう場）を開設したい。また、留学生をアシスタントとして採用し、外国語を用いたコミュニケーションにおける一定の役割を担ってもらおう計画もある。</p>
達成年度（予定を含む）
上記「改善状況」欄記載の内容については、今年度（平成25年度）。本学部における留学生との交流会、初修外国語のサロン（カフェ）開設は、次年度以降の予定。

改善事項
学部生の国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）
改善計画
<p>短期・長期留学をしやすい体制を整える（短期留学の単位化、長期私費留学の単位認定、国際インターンシップなどの開設可能性を探る）。部局間交流協定校から帰国した日本人学生の報告会を開催する（また、帰国学生には留学経験を報告書にまとめてもらい、留学志望の学生に随時、配布する）。</p> <p>そのほか、日本人学生と海外からの留学生との交流の機会を増やすべく、国際交流センターとも積極的に連携していく。また、国際的視野の涵養を含む学科横断的科目パッケージの検討を始める。</p>
実施時期（予定を含む）：平成25年秋
改善状況
<p>今年度、カリキュラム改正を行い、各学科横断（夜間主コースを含む）の専門科目として、新たに「海外研修Ⅰ・Ⅱ」を設けた。さらに、留学報告会では、ドイツ・ボン大学、スウェーデン・イエーテボリ大学に留学した邦人学生に経験を語ってもらった（その際、資料を配布し、ボン大学留学志望の学生に質問の機会を与えている）。ただ、参加者が少なく、今後は報告会の広報面での工夫が必要である。</p> <p>国際交流センターとの連携や学科横断的科目パッケージについては検討に入ったが、具体的な取り組みには至っていない。</p>
達成年度（予定を含む）
上記「改善状況」欄記載の内容については、今年度（平成25年度）。国際インターンシップの具体化については、次年度以降の予定。

交際交流センターとの連携と学科横断的科目パッケージについては継続審議とする。

改善事項

学部生のリーダーシップ

改善計画

フィールドワーク関連の授業で多様な人々と会う機会を多くしたり、授業内でプレゼンテーションを行う機会を増やす。また、市民を対象とした会合・催しでの発表の機会を積極的に作るよう支援する。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋

改善状況

社会学科では、蓄積された経験と知識を基にフィールドワーク教育を充実させている。ここでは、小グループに分かれて研究テーマを自主的に決め、地域の人・施設などの現場を訪れてインタビューや調査を行い、その結果をプレゼンテーションする。教務委員会において、学科の壁を越えたフィールドワーク（学部共通専門科目としての展開や社会学科のフィールドワーク授業を他学科にも開放するなど）を検討したが、どれも現実的ではないとの結論に達した。ただ、新たに開設された学部共通科目「人文社会科学の課題と探究Ⅰ」においては、全学科から集まった履修生が教員のインタビューやプレゼンテーションを行うなど、体験型の教育実践を行った。今後、社会学科では既に蓄積された経験と知識を基にフィールドワーク教育を一層充実させ、社会学科を除く他の 3 学科では、体験型学習の要素を一部取り入れた授業数を増やすことを目指すことになった。

達成年度（予定を含む）

平成 26 年度

改善事項

大学院生の英語教育

改善計画

ネイティブ教員の採用について検討を始め、英語による科目開講の可能性を探る。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋～平成 26 年度

改善状況

現在 1 名の英語ネイティブ教員がいるが、ネイティブ教員の増員を優先させる計画はどの専攻でも立てるに至っていない。また、日本語のできない学生を受け入れ、学位を取らせるような計画は立てられておらず、授業言語を英語のみにすることは現状では必要でない

<p>ことが判明してきている。しかし、大学院の英語教育の充実という観点なら、担当教員に外国人教員（非英語であっても）がいる研究指導分野や英文学・英語学の専攻分野では英語での修士論文の提出を認めるようにしており、人文社会科学研究科の英語教育は順当に進展していると言える。</p>
達成年度（予定を含む）
平成 25 年度

改善事項
教職の学級・学校のマネジメント能力
改善計画
<p>「生徒指導」（教職科目、大学教育センター教員担当）の講義内容を見直すことで、学級・学校のマネジメントに関わる実践的能力の習得を目指す</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 26 年度</p>
改善状況
<p>教職科目に関する事項は、人文社会科学部として改善できる内容ではなく、教育学部（及び大学教育センター）が設定すべきものである。「大学教育センター全学教育部門教職等資格科目部」所掌の事項であり、人文社会科学部からは委員は出ていないものの、協議は進めていく。</p>
達成年度（予定を含む）
平成 26 年度

改善事項
進路支援
改善計画
<p>既に入学式の際の父母懇談会において、就職状況については詳細に報告しているが、さらに情報発信の機会増大について検討する（例：①オープンキャンパス時、②全学が実施している「就職祭」の保護者向け懇談会の場等）また、インターンシップやキャリア・サポートを所管する委員会との連携を構築するべく努める。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋～平成 26 年度</p>
改善状況

保護者（および生徒／学生）に向けた就職状況の情報発信については、すでに行っている春の保護者懇談会時に加え、改善計画であげられている、オープンキャンパス時および年明け（1月ごろ）実施の静岡大学「就職祭」の保護者懇談会時（ただし全学の状況の中で）、にも行っており、改善されている。

なお、学生向け「求職」情報の発信は、全学と連携を保って、現在、学生個人がいつでも情報にアクセスできるようになっており、これを軸に、特に年末・年度末以降については、学生個人の登録メールアドレスに随時更新連絡を行うとともに、各学科を通じて年度末のぎりぎりまで情報発信を行っている。加えて、情報を得た学生の必要に応じた相談会も実施してきている。

他方、キャリア・サポート委員会（全学）やインターンシップ委員会との連携については、就職委員長がキャリア・サポート委員会の委員であるため、委員長を通じて一定の連携（全学・部局の連携）は行われている。具体的には、人文の要望で就職支援システムの改善につながった。もうひとつの、インターンシップ委員会については、2014年度、委員会の合同実施を具体的に検討・調整を行った。同委員会と就職委員会の連携方法についてはさらなる検討が必要である。

進路支援については、様々な具体的取り組みを行ってきた。全学の相談体制・ガイダンス・セミナーに加えて、学部独自の支援として、学部長裁量経費、学生厚生会の援助も受けつつ、つぎのような取り組みを行った。

- (1) 学生への個別相談業務
- (2) エントリーシート作成の助言
- (3) 面接カード（公務員向け）記入の個別相談
- (4) 小論文対策講座（夏季）、小論文講座（冬季：3回連続講座）
- (5) 法科大学院の説明会、司法書士の説明会、県警の説明会、など各種業種（進学）の説明会
- (6) キャリアカフェ（卒業生を交えてのざっくばらんな座談会）、
- (7) 同窓会による講演会
- (8) 夜間主向け相談業務
- (9) 年度末の駆け込み相談、etc.

達成年度（予定を含む）

平成 25 年度